

励ましのことば

卒業生の皆さん、本日は誠におめでとうございます。中学校の全課程を修了した証である卒業証書を手にした皆さんにとっては、あっという間の3年間だったのではないのでしょうか。これまでの中学校生活を振り返ると、勉強や部活動、学校行事に一生懸命に取り組む中で、楽しかったことや辛かったことなど様々な経験を通じて、大きく成長できたことと思います。

また、ご列席の保護者の皆さまにも心からお祝いを申し上げます。新型コロナウイルス感染症が感染症法上5類に移行されたとはいえ、この3年間は様々な制約があったことと思います。そのような中でも、常に温かい励ましと力強いサポートでお子さまの成長を見守っていただき、本日、この佳き日を迎えられることを重ねてお喜び申し上げます。

さて、皆さんも実感されているように、私たちの社会はアナログ社会からデジタル社会へ急速に変化しています。連絡手段は、手紙や電話からSNSでのやり取りが多くなり、ゲームや投稿動画などの娯楽も手軽に楽しむことが出来るようになりました。また、学校生活の中でも、令

和3年度からGIGAスクール構想のもと、1人1台端末を使った授業へと徐々に切り替わるなど、デジタル化を実感されていることかと思えます。

今後もICT技術は、私たちの生活の利便性を高めるとともに、様々な業務の自動化や効率化が一層進み、私たちにとって、今以上に欠かせないものになっていきます。

このようなデジタル社会において、あえて、皆さんにお願いしたいことが二つあります。

一つ目は、「人との出会いを大切にしたい」ということです。

皆さんは、4月からそれぞれの道を歩んでいきますが、これからの長い人生の中で、今まで以上に多くの出会いがあります。

「一期一会」という言葉をご存じでしょうか。この言葉には「一つ一つの出会いを大切に」という意味が込められています。人との出会いは、心を豊かにし、自分の考え方や価値観が広がり、新たな可能性の扉を開くチャンスにもつながります。

是非、皆さんには、「一期一会」の言葉を胸に、この3年間で出会った仲間や先生方、そして、これからの一つ一つの出会いを大切にしたいと思えます。

二つ目は、「感謝の気持ちを忘れずに、持ち続けて欲しい」ということです。1月1日に発生した「令和6年能登半島地震」では、多くの尊

い命が犠牲となり、未だに多くの方が避難生活を余儀なくされています。皆さんと同じ年代の中学生も集団避難を行い、家族や仲間と離れて生活しながら、学校に通っている生徒も数多くいます。皆さんも、普通に学校生活や日常生活を送れることが、どんなに幸せなことか、改めて感じたことと思います。また、皆さんがここまで成長することができたのは、自身の努力もさることながら、ご家族や仲間、校長先生をはじめ、多くの先生方、また、地域の方々の支えがあったからです。こうした何気ない日常や、大勢の方々に見守られ成長できることを、当たり前と思わず、感謝の気持ちを忘れないでほしいと思います。

皆さんは、これから未来に向かって無限の可能性があります。自由にチャレンジできる今の環境に感謝し、ご家族や仲間を大切にしながら、それぞれの人生を力強く歩んでいってください。

結びに、保護者の皆さまに賜りました学校教育に対する多大なご理解、ご協力と、校長先生をはじめ諸先生方の熱意あるご指導に対し、改めて深く感謝申し上げます。そして、卒業生の皆さんの益々のご活躍と光り輝く前途を心から祈念申し上げまして、励ましのことばといたします。

令和6年3月11日

甲府市長 樋口 雄一